

**第47回  
富山県手をつなぐ育成会大会 開催**

令和元年6月23日(日) 高周波文化ホール(射水市)



手をつなぐ  
とやま

第171号

富山県手をつなぐ育成会  
富山市安住町5-21  
富山県総合福祉会館内  
TEL 076-441-7161  
FAX 076-441-7255  
mail toikusei@minos.ocn.ne.jp  
HP <http://toyamaikusei.jp/>

発行責任者  
平野 幹夫

みなさんの会報です  
よく読みましょう

**学齢期支援プロジェクト  
「モコモコサークル」**



ハロウィンインテリアづくり(10月)  
らくがき大会(11月)など



Facebookはじめました!



<https://www.facebook.com/toyamaikuseikai/>

**日頃の悩みや困りごとを話し合う  
ワークショップ**



開催(9月・11月)

— 運転は心の広さのパロメーター —



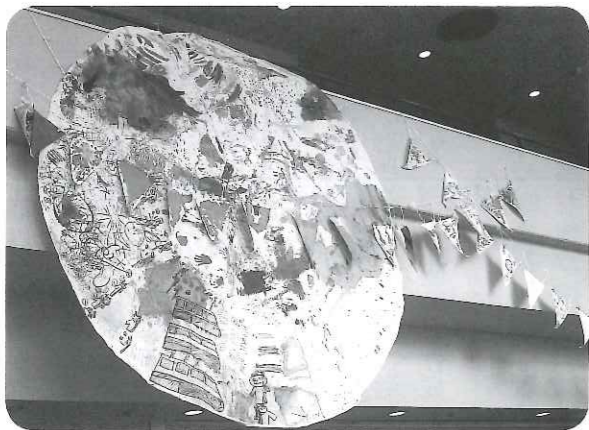
- 感謝状 (敬称略)**
- ・江口 優美子 (いみず苑)
  - ・山本 たみ子 (セーナー苑)
  - ・島崎 雅仁 (セーナー苑)
  - ・黒田 昌木 (四ツ葉園)
  - ・山本 美幸 (雷鳥苑)
  - ・富田 久美子 (さつき苑)
  - ・野寺 俊成 (新川むつみ園)



- 表彰状 (敬称略)**
- ・塩谷 光子 (射水市育成会)
  - ・小林 圭子 (砺波市育成会)
  - ・澤崎 誠次 (新生苑 家族会)



なお、会場内には、会館(高周波文化ホール)のご厚意により、昨年度開催した学齢期モコモコサークル、「らくがき大会」の作品(大きな丸い布に自由に描いたもの、三角フラッグに自由に落書きしたものを、飾らせていただきました。



周知不足で、気づかれた方は少なかつたようですが、なかなか飾る機会がなかった作品を、お披露目することができました。今後機会があれば、いろいろな会場で披露したいと思えます。

**射水エリアの会員の皆さんには、準備から当日の運営まで、多大なご協力をいただきました。本人大会でも、県内施設職員様をはじめ、地域のボランティアの方々にも多数ご支援いただき、楽しい一日を過ごしました。ご支援ご協力、ありがとうございます！**



令和元年6月23日(日)、第47回富山県手をつなぐ育成会大会を、射水市の高周波文化ホールで開催いたしました。育成会大会には約430名、本人大会には、ボランティアを含めると約220名の参加がありました。



式典では、射水市・夏野市長を始め、国会議員、射水市選出の県議会議員、全国手をつなぐ育成会連合会・久保会長など、たくさんのご来賓の皆様にご温まる激励の言葉をいただきました。



全国育成会連合会 久保会長



開会の挨拶 射水エリア 金瀬代表



大会長挨拶 県育成会 四方理事長



歓迎の挨拶 射水市 夏野市長



本人代表挨拶 本人部会 坊坂会長



**大会決議は、射水エリアの皆川道子さんが朗読**

令和元年を迎え、来年のオリンピック・パラリンピックに向けて、障害者を支える環境づくりが一段と加速化される、この好機を活かし、大会基本方針の「障害のある人もない人も、互いに人として尊重しあい、暮らしやすい地域共生社会の実現」を目指し、地域への理解啓発の推進や、相談支援の充実、地域生活支援拠点の整備、災



地元の道古さんは、初めての決議文朗読。開会直後から、舞台袖で緊張の面持ちでしたが、本番では堂々と読み上げて、会場からの大きな拍手を浴びました。

害時支援の具体化等、10の項目について読み上げられました。障害当事者による、本人決議は、本人部会長の坊坂隆さん、富山市の谷井里美さん、地元・射水市代表の道古史さんが担当しました。制度や、暮らしに関わる様々な情報を「わかりやすく教えてほしい」、たくさん経験をして、自分で選び、決めていきたい、私たちのことを決める時は、私たち抜きで決めないでくださいと、力強く発表しました。

県大会 全体研修会

「親亡き後」のために、今からできること

◎基調講演 久保 厚子氏 (全国手をつなぐ育成会連合会 会長)

◎シンポジウム

提言/細川 瑞子氏 (富山県育成会 権利擁護推進委員会委員長)

報告/常楽 美恵子氏 (新川)、村中 大治氏 (射水)、西部 穰氏 (砺波)

助言/久保 厚子氏

飛ばすまい みんなの町です 道路ですー

障害のある人の「親亡き後」は、年代にかかわらず、私たちの共通課題です。

富山県育成会では昨年、子どもが将来、安心して暮らしていくために、どのような準備をしたら良いのか、どのような支援が必要なのかなど、仲間同士の話し合いから考える勉強会を各エリアで始めました。

今大会では、この勉強会の概要を広くお伝えし、お一人おひとりが、具体的に「親亡き後」について考え、行動に移すためのきっかけ作りとし、今から、今すぐ、「やること、やれること」を学び合う機会としました。

基調講演

「親亡き後」のために 私たちができることは

久保会長の、今年44歳になる障害のあるご長男は、支援区分6の最重度、言葉もなく、食事や着替えなど全てのことに支援が必要で、親として「将来への不安」を抱えているそうです。



「みなさんと同じ、お母ちゃんのお線でお話しします」と始まった冒頭、「たとえ今日、明日、急に自分がパタッとなくなったら、お子さんは大丈夫でしょうか?」と問いかけをされました。富山県育成会でも会員に配布している「あんしんサポートノート」ですが、久保会長のお膝元、滋賀県育成会が全国に先駆けて作成しました。療育手帳や年金の通帳、受給者証等の大事な物、病歴や成育歴、服薬の情報などは、母親一人だけがわかっているというケースが多く、万が一の時のために、本人の情報を書き残しておく「引継書」が必要であるという思いから、ノートを作り、それが今、全国に広がっているとのことでした。いずれ、必要になる人も多いで

シンポジウム

あろう「成年後見制度」の申立ての際にも、類型(保佐、補助、後見)を決める際の参考になるとのことです、今からでも取り掛かるのは遅くない、思い出せる範囲でノートを書き始めてみて下さいと促されました。暮らしの場、働く場(定年後はどうする)、余暇活動の場、所得の補償、蓄え、本人を支えてくれる人。備えるべきことは、たくさんありますが、まずは、親、きょうだい等に、万が一のことがあった時、障害のある本人はどうなるのかを想像することが、「親亡き後の備え」を考える第一歩です、と結ばれました。

最初に細川さんより、昨年度の勉強会の結果、親の不安は、「出口(住まい等)」、「引継(親から誰へ、お金、情報)」、「安全(地域)」の3つであることが明確になったこと、また、本人へのヒアリングの結果、「管理能力(財産・情報・生活全般)」が弱い、「危機管理能力

力が乏しい」という課題がはつきりしたことが、報告されました。

勉強会の様子とその成果は、常楽さん、村中さん、西部さんから、各エリアの報告がなされ、いずれも、漠然と「親亡き後」への不安を持つていたが、具体的な課題や、地域に必要な資源(例えば24時間対応の相談の場、自立の体験ができる所、重度の人も利用できるグループホーム等)が見えてきたとのことでした。

細川さんは、一人ひとり、漠然とした「不安」を抱えているが、現状を認識せず、何を準備したらいいのかもわからず、なかなか重い腰が上がらないのが現実。同じ目的を持った仲間が少数で、心を開いて話し合えば、自分の問題として取り組む自覚が生まれ、自らできることを始める契機となる。また、地域に足りないサービスを、エリアの仲間や行政に要望していただくことが、育成会活動の輪を広げていくことにつながるなど、「4つのエリア」で「グループワーク」を行う意義や期待を語られました。

研修会後のアンケートでは、今後、「親亡き後問題」についての課題に取り組みたいですか? (複数回答可) という質問について、次のような結果が出ました。

今年度の勉強会は、これらのご意見も参考にしながら、各エリアで方針を決めて、進めていきます。「親離れ子離れ、大事なものは、わかつとるちゃ」という方は、ちゃんと準備をされていますか? 仲間同士で一緒に、ご自身、お子さん、ご家族の将来を語り、考え、準備していきませんか?

県大会に参加して

射水市 塩谷 光子

五月に元号が令和に変わり、初めての県大会が射水市高周波文化ホールで開催されました。

私は、旧新湊育成会の会長だった大先輩が近所におられたことや、当時の養護学校の保護者会が活発で、いろんな情報が聞けたこと、そして人と人とのつながりが大事だということから、育成会活動に関わり続け、今に至ります。

一番の思い出は、「いみず苑」の設立にかかわったことです。四方会長の指導のもと、会員が心ひとつになり、基金集めなどに駆けずり回り、8年近くの年月をかけて、「いみず苑」が出来た時には涙が出るほどうれしかったです。それから何年かたち、今、私たち「親」の課題は、「親亡き後」は「親あるうち」に考える、ということ。今大会は、そのことをテーマに全体研修会が行われました。

本人の住む場所は、入所、グループホーム、一人暮らし、いろいろ

ありますが、そこにはどんな支援があればいいのか、障害年金だけでは賄えない生活費はどうしたらいいのかが。

また、健康管理や金銭管理、成年後見制度の利用等々、数えきれない問題があるけれど、親が元気なうちに「道筋」をつける、ということが大事だと感じました。お話を聞いて、将来のために、「あんしんサポートノート」を利用し、子どもの特性、成育歴、病歴等、知っておいてほしいこと、支援してほしいことを書き残しておくことなど、今のうちから、できることがたくさんあるという思いになりました。

近年、若い年代の会員が減っていますが、同じ悩みを持つ人同士が集まり、子どもの将来のことを話したり、笑ったりして、仲間をつくれるのが育成会の良いところ。ぜひ若い方も一緒に、育成会活動を盛り上げてほしいと思います。

最後になりましたが、この度は、表彰していただき、ありがとうございました。

育もう 傷みをわかる 心の眼

- 1位 (56名) ...安心サポートノートの書き方・使い方を覚えたい
- 2位 (53名) ...グループホームを増やしてほしい
- 3位 (50名) ...後見人は誰が良いのか?
- 4位 (47名) ...後見はいつ申し立てるのが良いのか
- 5位 (40名) ...自立を体験できる場がほしい
- 6位 (38名) ...法人後見を進めてほしい
- 7位 (37名) ...遺言書の書き方を知りたい
- 8位 (30名) ...本人の自立の時期を考えたい
- 8位 (30名) ...地域との関わりを深めたい
- 10位 (22名) ...成年後見の申立ての手続きを知りたい



本人大会  
話し合い

午前は、「①療育育手帳について」、「②仕事・金銭管理について」の2つのテーマを、グループで話し合いをしました。

最初に、療育手帳を使ったことがある場所や、使える場所の情報交換をしました。

普段から手帳を持ち歩く人が多く、ほとんどの人が、電車やバス等の公共交通機関での使用をあげました。県外での使用、携帯電話の契約、定期購入、映画館、美術館、観光施設などでも使っており、「とても便利です」という声が多い中、「自動車学校でも療育手帳で割引があるといい」という要望もありました。

また、「AとBの差を無くしてほしい」とか、「精神障害の手帳との違いがわからない」、「年金の1級、2級と関係あるのか教えてほしい」との声もあり、あらためて本人部会などで勉強会をしたい、ということになりました。



て話し合ってみました。

人員が足りず残業時間が多い、夏は暑く冬は寒いの辛い、仕事が少ない、暴言を吐かれた、腰が痛い、一緒に働いている人と性格が合わない、仕事が終わるまで遅くまで帰れなかった、と悩みや辛いことは、次から次へと出てきます。また、「仕事は楽しいけれど、給料が少ない」という意見も多くありました。

悩みごとの相談先として、上司や、相談員、施設の職員、生活・就業支援センターがあげられました。

「職場の先輩に、たまに愚痴も聞いてもらっています」という発言の一方で、「なかなか本当の気が

とが多くなってきたことから、消費トラブルや、相談先について学び合う機会としました。

怪しい壺を売りつけられそうになるという芝居に、みんな夢中。そして爆笑、爆笑、爆笑。(撮影をするつもりが、こちらも爆笑しすぎて、撮るのを忘れてしまうほど) 迫真の「爆笑」の演技に、質問コーナーでは、「おばあちゃん、腰は大丈夫ですか？」と本気で心配する人も出て、また大爆笑。自分の身にも起こりそうな、わかりやすい内容で、「家の人にも、気を付けるように言っておく」、「買ってしまっても、取り消すことができることがわかって安心した」と、楽しく学び合うことができました。

これまでの本人大会(話し合い)では、楽しい話が多かったのですが、今回は「不安」や「悩み」にスポットを当ててみたところ、現実的、具体的な思いを吐き出す人が多く、それぞれの「将来」への不安も見えてきました。今後、本人部会などで、「本人自身」の自立に向けた学習会や、自分の思い、将来への希望を語り合う機会を多く設けたいと感じました。

ひとりひとりが考える 実践活動

持ちを相談できない」と複雑な思いや、職場の人とのコミュニケーションが難しい、障害者だから仕事が遅いと言われて傷ついている、わかってももらえない、という切実な声も。

「金銭管理」については、

- ① 年金や、工賃、給料などの、金銭管理は、誰がしているか
  - ② 将来、誰に金銭管理をしてもらいたいのか
  - ③ 金銭管理で難しいと思うこと
- この3つについて聞いてみました。
- ①と②については、「親」という答えが一番多くありました。今は「親」に管理してもらって



いるけれど、将来は「自分」で管理したいという人は、計算が苦手の間違えそう、他人に騙されて盗られないか心配、財布にお金があると一気に使ってしまうので、すぐにお金が無くなってしまいそう、という不安の声をあげてくれました。

将来も「親」に管理してもらいたいという人の中には、「親がいなくなったら誰に頼めばいいのかわからない」という意見や、「現在、親が後見人で任せてあるけれど、親が亡くなった後が心配」という、切実な声も聞くことができました。

自分で全て管理をしている人は、「年金と給料の使いみちを計算して、やりくりするのが大変だ」と話ししてくれました。

「小杉爆笑劇団」登場!

午後からは、開催地・射水市がご当地、「小杉爆笑劇団」さんに登場していただきました。

最近、本人さんたちから、「訪問販売の人が家に来て困った」、「メールに変なメッセージが届く」、「買わないと帰らせないと」言われて、仕方なくお金を払ってきた」といった相談が寄せられるこ



レクリエーション

今回は、「新湊小学校」様のご厚意により、体育館を使用させていただきました。

打合せ段階から、多々ご配慮いただき、明るく、広々とした中で、思い切り身体を動かし、気持ちよく1日を過ごすことができました。また、全体運営は「いみず苑」さんにご協力いただきました。様々な趣向で、長時間、飽きることなく楽しませていただきました。ご協力ありがとうございました。



横断は 目で確認 手で合図

### 第51回手をつなぐ育成会東海北陸大会

令和元年9月14日(土)・15日(日)  
石川県(金沢市地場産業振興センター)

お隣、石川県金沢市での開催とあって、富山県からは1334名(内、本人大会25名)と、多数の参加がありました。

「私たちの暮らす街で実現しよう 共生の地域を！私らしく共に暮らす 共に生きる！」をスローガンに、1日目の育成会大会では、「教育」「地域生活」「就労」「高齢化」「育成会活動」の5つの分科会が行われました。

第6分科会「高齢化」では、富山市の細川瑞子さんが提言者として登壇し、昨年度から始まった、県内4つのエリアでの「親じき後」に向けた勉強会と、その成果を紹介されました。

本人大会では、高岡市の串岡達也さんが、「仲間・友達」をテーマに発表をしました。

友達づくりについて、趣味の仲間や、育成会の本人活動での仲間、全国大会で知り合った県外の友達



などがいるけれど、健常者との友達関係には、戸惑いもあり、縁を切ったり切られたりしたことや、本人同士でも、もめごとや、けんかなど、いろいろあるなど、苦い経験談も包み隠さずに披露し、今後は、地域の仲間、趣味の鉄道での友達を、もっと作りたいと締めくくりました。

### 表彰 おめでとうございます

#### 感謝状(敬称略)

- 寺嶋 晴美(新生苑)
- 山下 早苗(セーナー苑)
- 立浪 信仁
- (たかおか万葉福祉会)
- 山田 有香(新川むつみ園)



大会2日目は式典、シンポジウムが行われました。

中央情勢報告を兼ねたシンポジウムでは、令和3年3月までに整備するとされている「地域生活支援拠点」について、地域の特性に応じて必要なサービスを抽出し、

すぐには整備できないとしても、仕組みづくりを検討し、共有することが重要だと提言されました。

富山県は著しく整備が遅れていますが、整備期限内での「完成形」にとられずに、「出来あがり想定図」を共有することが大事です。そのためには、育成会から積極的に、このようになれば安心、こんな支援があれば一人暮らしのチャレンジができるなど、障害のある人が地域で暮らすために必要な支援を、具体的に発信していくことだと発破をかけられ、背中を強く後押しされました。

### 第4分科会「地域生活」

黒部市 中川律子

娘をグループホームで生活させたいと活動しています。

行政や施設等に働きかけていますが、まだまだグループホーム等の、地域生活の基盤となる資源が出来ないのが現状です。

東海北陸大会・第4分科会に参

### 第6分科会「高齢化」

南砺市 西部 穰

障害者の高齢化は、「親なき後」の安心・安全の問題として、どこから手を付けていいのか分からないくらいに多岐にわたっている。

「65才問題」のように、現状の制度の改善に始まり、施設・制度の新設にまで及んでいる。今まさに、緒に着いたと言えるのではないか。

高齢者福祉をモデルに進んできた障害者福祉は、不都合が出るごとに改善されつつある。とは言うものの、その結果、仕組みが複雑で分かりにくかったり、手続きが煩雑であったりする。

65才問題などは、まさにそう言えるのではないか。そういうときに、相談窓口を一つにして、問題把握をして、機関につなげる事の大切さが提示された。

また、どのようなことに取り組み、現状と将来に備えなければならぬのか、それを整理して、育成会として、親として、何から取り組めばいいのか、今回、多くの



加しましたが、『日中サービス支援型グループホーム』や、『シェアハウス』、『サテライトハウス』など、いろいろな暮らし方の可能性を知り、娘の暮らしをグループホームにこだわらず、『シェアハウス』などではどうかと、頭の中で想像を巡らしながら、お話しを伺わせていただきました。

印象に残ったのは、福井県育成会の日向さんのお話でした。

娘さんは、重度の障害があるのに12年間もグループホームで生活しており、自分でできることは自分でしながら、利用者みんなが家族のように暮らしているとのことでした。

グループホームをあきらめかけていた私には、希望の光のように感じられました。

「地域で暮らすことが大切。そこに住んでいる利用者さんが大切にされていれば、本人が選んだのであれば、どこにいてもいい」という言葉が印象に残りました。

ことを示唆された。

育成会としては、政策提言にとどまらず、運動体として、どのように行動化すればいいのか？行政や社協等の関係機関にもっと働きかけていく方法はないのか？親として何から始めればいいのか？

富山県育成会では、昨年度は数回の「勉強会」をもち、現状と課題は明らかになったが、今後は、具体的に何をどのようにしていくのか、本腰を入れていかなければならない。

各支部育成会の果たす役割は大きく、保護者全体に問題提起して、到達点とそこに至る過程を明らかにしていかなければならないと感じた。

今まさにこの渦中において、苦労を強いられている、高齢者や若い親たちの今後のためにも、今、動けるものが動かないと、先には進めない。そんな危機感を抱いた分科会であった。

### 親じきあとは

#### 親あるうちに

3月16日(土)、富山市、富山県育成会主催、富山県育成会共催で、「親から地域社会へのバトンタッチ」準備と支援を考えるセミナーが開催されました。

県内全域から270名余参加して、先進地・大分県別府市の取組みについての講演、県内4エリアでの勉強会報告を皮切りに、当事者団体からの発信、支援者側からの報告など、密度の高い内容となりました。

5月19日(日)、積水ハウス富山営業所、富山県育成会の主催で、「障がい福祉セミナー」が開催され、125名余が参加しました。

冊子「手をつなぐ」の連載でもお馴染み、「親なきあと」相談室主宰の、渡部伸さんによる特別講演では、今ある法制度やサービスの場のこと、お金のこと、生活のこと、親あるうちにできる準備などについて、具体的にお話ししていただきました。



# 平成31年度(令和元年度) 富山県予算に対する要望回答

毎年、県当局及び県議会自民党県連政務調査会に対して、「予算要望書」を提出し意見を述べられる機会をいただいております。今回、県議会自民党県連政務調査会からいただいた「平成31年度予算要望」に対する回答の中からいくつかご報告します。全体回答については、各支部長さんに送付してまいりますので、必要な方は、支部長さん、又は事務局へお問い合わせください。

## 地域における知的障害者理解の浸透を図るため、ヘルプマークとヘルプカードの普及・啓発

ヘルプマークは、外見からは援助や配慮を必要としていることが分かりづらい方々が、周囲の人々に配慮を必要としていることを知らせるもので、平成30年7月から障害福祉課や市町村障害福祉担当課等で配付を開始した。



ヘルプマーク

このヘルプマークの導入等を通じて、差別解消条例の普及啓発を進めるとともに、すべての県民が共に生きる「共生社会」の実現を目指し、障害のある方や障害特性への県民の理解が更に深まるよう、取り組んでまいります。

(障害福祉課)

— おたがいに 気づかう心で 明るい社会 —

## 「障害者虐待防止法」を周知徹底するための研修と、養護者についてむしる支援の対象であるなど、法律の趣旨を尊重した支援体制推進

障害者虐待防止については、専門の研修会や出前講座を開催し、障害者虐待の定義や虐待発見者の通報責務や通報スキーム等について周知徹底を行っているほか、「富山県障害者虐待防止ネットワーク協議会」を設置し、障害者虐待の防止等について協議しているところである。また、県障害者権利擁護センターを設置し、各市町村の虐待防止センターと連携して、通報・相談への対応を行っており、支援にあたっては、虐待されている障害者の保護等はもとより、必要に応じて養護者に対する支援も行うなど、それぞれの事案に応じた対応を行っている。今後とも、障害者虐待の早期発見・早期対応、未然防止に取り組んでまいります。

(障害福祉課)

## 障害のある人に寄り添いながら、現在の困りごとや将来希望する暮らし方などの「ライフプラン」を一緒に考える相談支援の充実

県では、相談支援専門員の量的確保と質の向上を図るために、毎年度、国のカリキュラムに沿って、相談支援専門員(初任者および現任)の研修を実施しており、研修の企画にあたっては、県内外の有識者をはじめ、相談支援の経験が豊富な専門員を交え、数ヶ月にわたりカリキュラムの内容を検討し、研修内容の充実に積極的に努めてきたところである。

障害者の自立した地域生活を支える相談支援体制のより一層の機能強化を図るために、引き続き、相談支援専門員研修の充実に取り組むとともに、市町村や事業所説明会等を通じて、多くの方に研修を受講してもらえよう呼びかけてまいります。

(障害福祉課)

## 重度対応が可能なショートステイの確保と、支援員に対する障害特性に関する理解啓発研修の充実や適切な支援

国は、障害者ができる限り地域において自立した生活を送ることを基本とし、施設入所者の地域移行を図っており、その受け皿となるグループホームの整備を重点的に進めているところであり、グループホームの整備にあたっては、短期入所(ショートステイ)サービスを併せて行うよう働きかけている。

県ではこれまで、県リハビリテーション病院・こどもセンターにおいて、重症心身障害児専用の居室や短期入所専用の居室を整備するとともに、30年7月に開設した療養介護棟において短期入所サービスを開始した。また、重症心身障害児等の身近な地域におけるサービス拠点を確保するため、短期入所施設等での受入れに必要な医療備品等に対して支援するとともに、重症心身障害児等の支援者育成に向けた取組として、重症心身障害児者への支援方法や対応の注意点を学ぶ研修を実施している。31年度には新たに、医療的ケア児等の支援者、並びに福祉と医療等の支援機関をつなぐ橋渡し役となるコーディネーターの養成を行うこととしたところである。

県としては、今後とも、重症心身障害児者等の重度障害者の地域生活の充実を図るため、在宅のセーフティネット機能の充実に努めてまいります。

(障害福祉課)

## 災害時における知的障害者専用の避難所や一般の避難所の中での専用スペースの確保

県では、「富山県災害時要援護者支援ガイドライン」において、要支援者名簿の充実や個別の避難支援計画の作成、福祉避難所の設置などについて、具体的な事例や進め方を示し、市町村における取組みが進むよ

なくそう差別

守ろう人権

う支援してきた。今後、障害者の避難対応策等が具体化するよう市町村にあらためて働きかけるとともに、災害時における知的障害者専用の避難所や一般の避難所の中での専用スペースの確保については、他県の情報収集に努め、先行事例等があればあわせて市町村へ周知してまいります。また、各地域において要支援者と民生委員等の支援者の双方が参加した実効性のある防災訓練が実施されるよう、市町村や障害者団体等に願いをまいります。

引き続き、市町村等と連携しつつ、要支援者の避難支援体制の整備が進み、避難対応策が具体化するよう努めてまいります。

(障害福祉課)

## 障害者雇用促進法を遵守した障害者雇用を推進するため、県と市町村における障害者雇用率のいわゆる「水増し問題」の実態把握と、再発防止への早急な改善

今回の事案の原因について、国の検証委員会の報告では、制度を所管する厚生労働省の対応について問題点が指摘されたほか、国の各行政機関における、対象障害者の計上方法の正しい理解の欠如や障害者雇用促進法の理念に対する意識の低さが挙げられた。これらを踏まえ、国では再発防止策や障害者の活躍の場の拡大、任用面での対応策などを掲げた「公務部門における障害者雇用に関する基本方針」を策定したほか、現在、障害者雇用促進法の改正について議論が進められている。

県では、国の基本方針や障害者雇用促進法の改正内容も踏まえ、法定雇用率を順守し、障害者雇用を積極的に進めるとともに、障害のある人がその能力を十分発揮できる場の創出や、障害の内容や程度に応じた合理的配慮の適切な提供・実施に努める。

また、市町村に対しても、情報提供等に努めるとともに、求めや必要に応じ、助言等を行っていく。

(人事課)

富山県知的障害児者生活サポート協会だより

生活サポート総合補償制度 2020年度改定のご案内 (抜粋)

●生活サポート総合補償制度は、2020年4月1日より掛金と補償内容の改定を実施いたします。

●制度掛金(保険料)の変更

A・Bプランの掛金(保険料)の値上げを行います。

Table with 3 columns: Plan (A, B, C), Before Change, After Change. A plan increases from 17,000 to 19,500. B plan increases from 23,000 to 25,200. C plan remains at 22,000.

●改定内容の詳細については、「生活サポート総合補償制度 2020年度改定のご案内」をご覧ください。また、「2020年度制度会員継続のご案内」(2020年2月頃に発送予定)にて再度お知らせしますので、必ずご確認ください。

●改定後のプラン内容

Table with 4 columns: Item, A Plan, B Plan, C Plan. Lists various insurance and support items like nursing care, hospitalization, and funeral costs across three plan levels.

お問い合わせ先

富山県知的障害児者生活サポート協会 (076-441-7161)
ジェイアイシーセントラル金沢支店 (0120-378-323)

日常生活での「悩みや・困りごと」を話し合う
「ワークショップ」を開催しています!

アドバイザー 前田 宣子 先生

(日本自閉症スペクトラム学会 理事、特別支援相談員 スーパーバイザー)

9月8日(日) サンシップとやま、11月4日(月・振休) サンシップとやま

参加者がお話しされた悩みは、ここには書けませんが、お一人おひとりの切実な悩みには、参加者皆が共感し、涙がこぼれそうになる瞬間もあります。しかし、決して湿っぽい雰囲気ではありません。
前田先生からは、困っているのは親や先生や職員ではなく、障害のある人自身であり、社会性を育むということ、その人自身のためである、という一貫した視点で、

参加者からのアンケートには、障害特性やタイプが違っても悩みには共通点があった。同じような悩み、環境、状態の人がいることに共感し、頑張ろうとする力をもらった。
学校や病院で相談しても、答えが出ない事に気づく機会と
なった。
周りに同じ悩みの人がいなくて孤立していたが、一人ではないと思えたこと、そして、先の見通しが少し見えてきたことが良かった。
他の方の話や、先輩の話聞けて良かった。今、自分が何をしたいといけないのかを考えることができた。
具体的なアドバイスが、とてもわかりやすく、すぐに実践してみたいと思った。その成果を、また先生にお話ししたい。
和やかな雰囲気、時間が短く感じられ、とても前向きに変わった。
等、このワークショップの目的の一つである、「悩みを共感しあえる」という感想をたくさんい

ただきました。また、継続参加されている方からは、「前回、参加した際にいただいたアドバイスを実行したところ、このように改善しました」といった数名の方のコメントがあり、事務局も開催の甲斐があったと、大変励みになりました。
回を重ねるごとに、参加者数が増え、やはり悩みを抱えている方は多いのだと実感します。
毎回、皆さんの思いに込めようと、つつい定員オーバーにもなっていました。
また、富山市以外での開催希望の声もあるため、次年度は開催地などを配慮し、皆さんがなるべく足を運びやすいような形にしたいと考えています。
なお、前田先生のアドバイスを抜粋したものを、ホームページに掲載しておりますので、ご関心のある方は是非、ご覧ください。
今回は、1月下旬の開催を予定しております。詳しくは、ご案内チラシ、ホームページ等でご確認ください。

ご参加お待ちしております!

無関心 見て見ぬ振りから 差別の芽

子がまねる 親の正しい 歩き方

平成31年度(令和元年度)収支予算

【運営の部】(収入の部) 平成31年4月1日～令和2年3月31日 (単位:円)

Table with 5 columns: 科目, 平成30年度予算額, 平成30年度決算額, 平成31年度予算額, 備考. Rows include 制度運営費, 雑収入, 繰越金, 合計.

(支出の部) (単位:円)

Table with 5 columns: 科目, 平成30年度予算額, 平成30年度決算額, 平成31年度予算額, 備考. Rows include 一般管理費, 会議費, 旅費, 通信費, 消耗品費, 事務委託費, 共益費, 全国年会費, 事業費, 日常生活相談支援事業, 就労相談支援事業, 権利擁護相談支援事業, 啓発事業, 入会記念品, 予備費, 繰越金, 合計.

【保険料の部】(収入の部) (単位:円)

Table with 5 columns: 科目, 平成30年度予算額, 平成30年度決算額, 平成31年度予算額, 備考. Row: 保険料.

(支出の部) (単位:円)

Table with 5 columns: 科目, 平成30年度予算額, 平成30年度決算額, 平成31年度予算額, 備考. Row: 保険料.

富山県知的障害児者生活サポート協会だより

平成30年度 収支決算報告

【運営の部】(収入の部) 平成30年4月1日～平成31年3月31日 (単位:円)

Table with 5 columns: 科目, 平成30年度予算額, 平成30年度決算額, 比較増減(決算-予算), 備考. Rows include 制度運営費, 雑収入, 繰越金, 合計.

(支出の部) (単位:円)

Table with 5 columns: 科目, 平成30年度予算額, 平成30年度決算額, 比較増減(決算-予算), 備考. Rows include 一般管理費, 会議費, 旅費, 通信費, 消耗品費, 事務委託費, 共益費, 全国年会費, 全国入会金, 事業費, 日常生活相談支援, 就労相談支援, 権利擁護相談支援, 啓発事業, 入会記念品, 予備費, 繰越金, 合計.

【保険料の部】(収入の部) (単位:円)

Table with 5 columns: 科目, 平成30年度予算額, 平成30年度決算額, 比較増減(決算-予算), 備考. Row: 保険料.

(支出の部) (単位:円)

Table with 5 columns: 科目, 平成30年度予算額, 平成30年度決算額, 比較増減(決算-予算), 備考. Row: 保険料.

平成30年度 主な事業報告

- ①サポート協会3事業
●日常生活相談支援事業 支部等助成 22件 785,000円
●就労相談支援事業 エリア助成...3件 135,000円
●権利擁護相談支援事業 エリア助成...2件 159,000円
②知的障害者相談員研修 平成30年8月30日(木)
●「学齢期支援プロジェクトについて」活動報告 県サポート協会 理事長 中田 隆志
●「親亡き後への事前準備について」活動報告とグループワーク 県育成会権利擁護推進委員会 委員長 細川 瑞子氏
③学齢期支援プロジェクト～モコモコサークル「親子で楽しむイベント」～ 平成30年11月25日(日)
●「チャレンジアート落書き大会」(全国サポート協会の助成事業)

あなたにかい 心と心のふれあいで 守ろう人権

人権は かけ声よりも 心がけ



## 「心のとも運動」鉛筆等頒布のご協力ありがとうございました。

県内の小・中・高の生徒、先生、保護者の皆様、毎年知的障害のある人達へのご理解・ご支援の一環として、鉛筆等頒布「心のとも運動」にご協力いただき、ありがとうございます。

平成30年度も皆さまの多大なご協力のお陰で、当会では事業を充実させることができました。厚く御礼申し上げます。

なお、収益金のうち110,000円を県特別支援教育研究会に助成させていただきました。

**合計 541,651円** 県特別支援教育研究会に110,000円助成

令和元年度につきましても、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

	小学校		中学校		高等学校		個数 合計	校数 合計
	個数	校数	個数	校数	個数	校数		
鉛筆	8,555	70	1,048	15	267	11	9,870	96
赤鉛筆	498	57	74	11	12	5	584	73
多機能ペン	256	60	132	12	15	3	403	75
シャープペンシル	276	60	136	13	16	5	428	78
替芯	167	49	304	14	37	7	508	70
消しゴム	1,964	69	840	15	124	9	2,928	93
マーカーペン	318	60	146	14	40	6	504	80
ネームペン	1,158	67	388	14	38	9	1,584	90
3色ボールペン	202	55	81	14	13	4	296	73

### 育成会の動き

期 日	内 容	期 日	内 容
<b>[報告]</b>		10/10(木)	相続まるごと相談センター設立記念式典 (自遊館)
7/30(火)	県障害者施策推進協議会 (県庁)	10/16(水)	富山障害フォーラム会議 (富山市)
8/2(金)	富山障害フォーラム会議 (富山市)	10/17(木)	施設部会 (サンシップ)
8/6・7(火・水)	障害者相談員 (3障害) 活動強化研修会 (金太郎温泉)	10/20(日)	パイロットウォーク (富山市ファミリーパーク)
8/20(火)	県育成会権利擁護推進委員会 (サンシップ)	10/23(水)	県予算要望 (県庁)
8/29(木)	社会福祉施設・団体連絡会議 (高志会館)	10/24(木)	サポート協会ブロック会議 (高山市)
8/30(金)	サポート協会三者会議 (サンシップ)	10/26(土)	地域事業所部会職員研修会 (呉羽ハイツ)
9/1(日)	本人活動部会 (サンシップ)	10/27(日)	学齢期モコモコサークル「ボッチャとサポートノート」 (富山市総合社会福祉センター)
9/3(火)	県パーキングパーミット制度検討会 (県民会館)	10/31(木)	県人権教育・啓発推進懇話会 (県民会館)
9/6(金)	ふれあいスポーツ大会 新川地区 (魚津ありそドーム)	11/3(日)	本人活動部会 (サンシップ)
9/7(土)	「障害フォーラム in とやま」 (富山市総合社会福祉センター)	11/4(月)	困りごと悩みごと相談ワークショップ (サンシップ)
9/8(日)	困りごと悩みごと相談ワークショップ (サンシップ)	11/6(水)	サポート協会理事会・審査会 (サンシップ)
9/12(木)	県育成会権利擁護推進委員会 (サンシップ)	11/13(水)	施設部会・施設長との懇談会 (いみず苑)
9/14・15(土・日)	第52回 手をつなぐ育成会東海北陸大会石川大会 (金沢市)	11/16(土)	学齢期モコモコサークル「らくがき大会」 (富山市民芸術創造センター)
9/18(水)	県議会 自民党政調会 県予算要望 (県議会)	11/19(火)	県育成会権利擁護推進委員会 (サンシップ)
9/20(金)	心の輪を広げる体験作文・ポスター審査会 (県民会館)	11/21(木)	県発達支援・特別支援協議会 (県民会館)
9/20(金)	ふれあいスポーツ大会 射水・高岡・氷見地区 (高岡市竹平記念体育館)	11/23・24(土・日)	全国手をつなぐ育成会連合会 全国大会 (熊本市)
9/24(火)	県特別支援学校 PTA 連合会研修会 (サンフォルテ)	11/26(火)	富山障害フォーラム会議 (富山市)
9/26(木)	ふれあいスポーツ大会 となみ地区 (県西部体育センター)	11/27(水)	県育成会権利擁護推進委員会 (サンシップ)
9/27(金)	ふれあいスポーツ大会 富山地区 (県総合体育センター)	11/29(金)	支部長・相談員等研修会 (呉羽ハイツ)
9/29(日)	県防災訓練 (黒部市)	11/30(土)	ふれあい共生フォーラム (ファボーレ)
9/30(月)	第19回全国障害者スポーツ大会 結団壮行式 (県民会館)	12/1(日)	本人活動部会 (サンシップ)
10/1(火)	共同募金キャンペーン (富山駅)	<b>[予定]</b>	
10/6(日)	学齢期モコモコサークル「ハロウィンインテリアづくり」 (サンシップ)	1/26(日)	困りごと悩みごと相談ワークショップ (サンシップ)
10/7(月)	けやき苑創立40周年記念式典 (富山市障害者福祉プラザ)	2/9(日)	学齢期モコモコサークル「プログラミング」 (県総合情報センター)
		2/19(水)	施設部会・事業所部会 (サンシップ)
		3/25(水)	県育成会・サポート協会理事会 (サンシップ)

みんなであそぼう 守ろう 子どもと老人